

(様式1) 実践事例

学校名	福島市立立子山中学校	校長名	大和田 一成		
住所	福島市立子山字大稲場20番地	児童生徒数	26名	学級数	3
TEL	024-597-2311	ホームページアドレス	tatsukoj@ht-net21.ne.jp		

少人数の良さを生かした言語活動の充実

1 少人数指導の計画

教育活動全体を通して、少人数（1学年7名、2学年10名、3学年9名 ※平成25年度）の利点を最大限に生かした言語活動を工夫し、思考・判断・表現力の育成を図る。また、これらの能力をさらに育成するために、学習状況を一人ひとりつぶさに把握し、評価する。

2 実践の概要

- (1) 「討論（話し合い）→論述（レポート）→発表」を基本ユニットとした言語活動の充実
各教科、総合、道徳、行事等、教育活動全体を通して、少人数の利点を最大限に生かして、「討論（話し合い）→論述（レポート）→発表」を基本ユニットとした言語活動の充実を図った。



国語の授業。机から離れ、輪になって話し合う。相互の距離が縮まり、リラックスした雰囲気の中、全員参加の活発な話し合いが成立する。多様な意見の交流を通じ、個々の考えが深まっていく。その後の文章化により、思考の整理・深化が促される。最後に、文章を全員が発表し、互いに意見を述べ合うことにより、思考・判断・表現力の向上を図る。



体育。バスケットボールの授業。実技の合間に作戦会議。プレーを言語化して振り返ることにより技能向上を図る。

総合的な学習の時間。カウンセラーを囲んでの話し合い。思いを全員で語り合うことで、心のケアを図る。



行事等、教育活動全体を通して、言語活動の充実を図っている。左写真は、文化祭での学習発表。右は、保小中合同郷土理解教室の発表場面。少人数の良さで、全員が発表できる。発表の機会が多ければ多いほど、論理的な説明等の表現力が高まる。

- (2) 少人数の良さを生かした一人ひとりの学習状況の把握と評価

- 授業後、毎回、全員分のノートを集め、一人ひとりの学習状況をつぶさに把握し、評価する。
- 言語活動の過程や結果（論述等）から、一人ひとりの学習状況をつぶさに把握し、評価する。

(3) 一人ひとりの到達状況や課題に応じた個別指導の充実



一人ひとりの学習状況をふまえ、到達目標に照らして十分な学力を付けさせるため、日頃から個別指導を実施。左写真は、数学科担当による、放課後の個別指導の様子。

夏休みと冬休みは、学習習慣の確立と個別指導による補充、応用力の育成をねらいに、全校生対象に教室開放学習会（午前中）を全校体制で実施。

3 実践の成果と課題

(1) 成果

- 言語活動の充実により、考えを交流、深化、発表する態度や技能が身に付いてきた。
- 全国学力状況調査では国語Bが県、全国を大きく上回り、応用力の伸長がうかがわれた。県学力調査（2年）では全教科で正答率が県、全国を上回った。

(2) 課題

- 国語科を軸に教科間の関連や学年を越えた系統的で意図的、計画的な言語活動の充実を図る。
- 全国学力調査、県学力調査、定着シートを分析、活用し、平均値だけでなく、一人ひとりの到達状況や課題、変容等をきめ細かく把握、評価し、授業改善や個別指導に生かす。